

令和元年6月10日

愛知県上海産業情報センター

林 秀 幸

## 一般調査報告書

### 江蘇省南通市における愛知県企業訪問

先日、江蘇省南通市に拠点を置く愛知県企業を訪問する機会を得ましたので、現地の状況について報告したいと思います。

#### 1. 南通市の概況

南通市は長江下流部の北側に位置する江蘇省の地級市（概ね省と県の間クラス行政単位）の一つです。人口は766万人、面積は8,001km<sup>2</sup>で、経済規模は同じ江蘇省内の蘇州市、南京市、無錫市に次ぐ4番目の都市です。

南通市は、上海市からは約100km、蘇州市からは約90kmと沿岸部の主要都市の近郊に位置しておりますが、長江の北岸にあり、上海、蘇州、無錫、南京といった長江南岸の大都市と大河によって隔てられた立地から、地理的にはいくぶん不利なイメージがありました。しかし、近年、交通網の整備が急速に進んでおり、その利便性は目覚ましく向上しています。

長江を渡る上海市との連絡橋としては、2008年に開通した蘇通長江大橋と2011年に開通した崇啓大橋のほか、現在建設中の沪通鉄道大橋、さらに計画中の崇海トンネル大橋の4つが整備、あるいは整備予定となっています。

また、上海と南通間の高速鉄道（沪通鐵路）も整備が進められており、2020年には上海-南通間が35分ほどで結ばれる予定であるほか、南通、蘇州、嘉興を繋ぐ高速鉄道（通蘇嘉城際（都市間鉄道））も計画されており、鉄道でのアクセスも格段に向上する見込みです。（下図参照）



(出典：百度百科「沪通鐵路」)

そして、海運の面では南通港があります。南通は港の街でもあり、南通港は中国沿海港ベスト10にも数えられる有数の港として、この地域で生産される商工業製品の積出しなどに重要な役割を果たしています。

さらに、空の玄関口として南通興東空港があります。南通興東空港は、北京、天津、広州、深圳など国内18都市に便があるほか、2015年には国際空港に格上げされ、日本、韓国、タイ、シンガポールなどへのフライトが開通しており、国際貨物も含め、上海国際空港の補助空港としての役割も担っています。

こうした陸海空の交通インフラの充実が図られている南通市は、教育の面も有名であり、清朝の末期に中国初の師範学校が設立されるなど、古くから教育の盛んな地でもありました。そうした土地柄を反映し、南通市には、南通大学を始め南通職業大学、南通理工大学といった多くの大学や職業学校が集積しており、これまで多くの人材が輩出されてきました。

また、市内には日系のイオンモールのほか、世貿ショッピングモールや星湖101飲食街といった商業レジャー施設も数多く出店しており、生活環境も充実しています。特に、2022年の開通に向けて進められている地下鉄の開通工事が市内の至る所で行われており、今後のさらなる発展が期待されています。

## 2. 南通経済技術開発区

このように交通至便で発展の勢いのある南通市では、海外からの進出企業誘致に力を入れています。南通経済技術開発区は、1984年に設立された国家級開発区で、面積は184km<sup>2</sup>、経済区人口は30万人を誇ります。経済区内には、世界40の国・地域から800社以上の外資系企業が進出しており、世界ベスト500社のうち80社が工場などの拠点を構えており、日経企業も多く進出しています。

主要産業は、精密機械、電子、食品・健康、設備製造、新素材などの分野ですが、近年は特にスマート製造やビッグデータ産業にも力を入れており、経済区内には「スマート製造産業園」や「国際ビッグデータ産業園」といった専門の産業園区画がいくつも整備されています。

経済区は供給インフラも充実しており、水道供給（120万t/日）、蒸気供給（750t/h）、汚水処理施設（25万t/日）のほか、4つの発電所からの電力供給により安定した産業環境が提供されています。

## 3. 愛知県企業訪問

今回は、この経済区に工場を置く愛知県企業（A社）を訪問いたしました。

この企業は、2003年から南通市に生産拠点を構える機械製造メーカーです。

A社は日本と中国に工場を持ち、南通の工場で生産された機械の約6割は海外への輸出品となるそうです。訪問した際、A社の総経理から真っ先に出た話

題は、人材確保の難しさについてでした。

A社によると、ここ数年、工員の募集をかけても若い人材が集まらないとのことで、工場労働者の定年が男性で55歳、女性で50歳という中で、新たな採用ができず、工員の平均年齢が44歳と高止まりになった状態が続いているとのことでした。A社がこの原因として挙げておられたのは、人件費の高騰も一つの要因ではあるものの、賃金の見直しも行っているとのことで、それ以上に、最近の若者が工場での機械製造という分野にあまり関心を示さなくなっているためではないかとのことでした。

A社は企業としての業績は安定しているそうですが、定年退職者が毎年数名ずつ出ているという状況の中で、新たな人材の確保が喫緊の課題となっているようです。

また、米中貿易摩擦の影響については、昨年、米国向け製品に大口のキャンセルが入り大きなダメージがあったほか、今後の展開次第では、海外からの材料の調達ができなくなることも想定されるとして、成り行きを警戒しながら見守っているとのことでした。A社曰く、中国国内のマーケットは拡大しており、国内で消費される商品を製造するメーカーは良いが、海外向け商品を中心に製造している企業にとっては難しい局面にある、とのことでした。

今後のさらなる都市の発展が期待される反面、人材確保の難しさや世界経済の先行きへの懸念もあり、進出する地域、業種、業態によっては有利、不利が分かれることもあるようです。

上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。